

ii

Iiyama City
Master Plan
2023 >> 2032

第

1

章

序
論



第 1 章

序 論

1 計画策定の趣旨

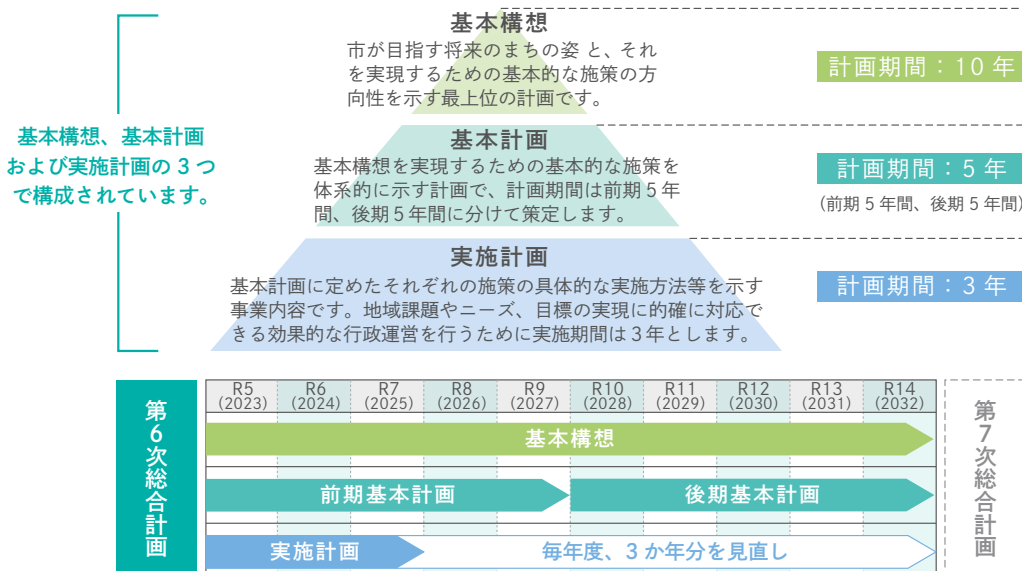
総合計画は、飯山市が目指す 10 年後の将来のまちの姿を描き、その実現に向けた方向性や目標を示したまちづくりの基本方針となる市の最上位に位置付けられる計画です。

本市では、平成 25 (2013) 年に飯山市第 5 次総合計画を策定し、将来のまちの姿に「自然と共生する豊かな暮らし『技と縁のまち 飯山』」を掲げ、まちづくりを進めてきました。同計画の策定から 10 年が経過し、人口減少・少子高齢化の進行、新型コロナウイルス感染症のまん延による人々のライフスタイルの多様化やデジタル技術の急速な進化など飯山市を取り巻く状況は大きく変化しています。

このような時代の変化に対応して、市民・事業者・団体・行政などまちづくりに関わる全ての担い手が、将来のまちの姿の実現に向けて協働で取組を進めていけるよう、第 6 次総合計画を策定します。

2 計画期間と構成

計画期間は、令和 5 (2023) 年度から令和 14 (2032) 年度までの 10 年間です。



3 飯山市を取り巻く社会の潮流

(1) 人口減少・少子高齢化

日本全体の人口減少・少子高齢化が進むなか、平成 29 (2017) 年推計の国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」によると、将来の人口は令和 7 (2025) 年にはおよそ 1 億 2,254 万人、令和 32 (2050) 年にはおよそ 1 億 192 万人になると予測されています。また、人口の年齢構成も少子高齢化によって大きく変わり、年少人口 (0~14 歳) が総人口に占める割合が低下するだけでなく、生産年齢人口 (15~64 歳) が総人口に占める割合も低下していくことが見込まれます。

平成 12 (2000) 年時点の生産年齢人口は 8,638 万人で、総人口に占める割合は 68.1% となっていますが、これが令和 32 (2050) 年にはそれぞれ、およそ 5,275 万人、51.8% にまで低下することが見込まれています。生産年齢人口の減少は、労働力の減少により経済成長の制約となり、総人口に占める生産年齢人口の割合の低下は、支え手の減少を通じ、社会保障制度の基盤を不安定なものにすることが懸念されています。

(2) SDGs の推進

SDGsとは、平成 27 (2015) 年9月の国連サミットで採択された国際社会における令和 12 (2030) 年までの開発目標です。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けた取組が求められています。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による社会構造の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「都市集中型社会」から「地域分散型社会」への変化により、地方暮らしに関心が高まっています。

感染防止策として、「密集 密接 密閉 (三密)」を避けるため、働き方や経済活動・地域活動のあり方の見直しが進んでいます。

(4) 社会全体のデジタル・トランスフォーメーション (DX) の推進

デジタル技術の急速な進化や、データの多様化・大容量化が進展し、その活用が不可欠となりました。また、新型コロナウイルス感染症の対応において、地域・組織間で横断的にデータが十分に活用できないことなど様々な問題が明らかとなりました。このことから、デジタル化の遅れに対して迅速に対処するとともに、「新たな日常」の原動力として、制度や組織のあり方等をデジタル化に合わせて変革していく、言わば社会全体のデジタル・トランスフォーメーション (DX) が求められています。

(5) 自然災害の甚大化と気候変動に対する取組

「気候危機」とも言われる地球温暖化が進むなか、その影響の一つとして自然災害の甚大化が考えられています。今後、温室効果ガスの排出量削減に向けた、環境配慮行動や省エネルギー機器の導入等の従来の緩和策に加え、防災対策や熱中症対策等の適応策も講じる必要があります。

国は「2050年カーボンニュートラル」を宣言しており、達成に向けて再生可能エネルギーの活用など脱炭素社会の実現に向けた取組が求められています。

(6) ダイバーシティ社会の実現

持続可能な地域社会を実現するためには、年齢や性別、国籍、人種、障がいの有無、性的指向・性自認等に関わりなく、一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮することができ、多様性が受容されるダイバーシティ社会を実現していくことが必要です。

(7) エネルギーと食料の安定供給

エネルギーについては、石油等の限られた化石燃料に依存しすぎることなく、安全性と環境に配慮した再生可能エネルギーの導入による自給自足の取組等で、エネルギーの安定供給を図る必要があります。

また、世界の食料需給の長期的なひっ迫が懸念されるなか、新型コロナウイルス感染症の拡大や、ロシアのウクライナ侵攻により輸入国間の競合等の懸念が生じており、食料の安定した供給や自給率の向上が重要となっています。

4 飯山市の現状

(1) 第5次総合計画の総括（概要）

後期基本計画に掲げた4つの重点目標ごとにまとめました。

仕事と子育てのまるごと応援で若者が住みたくなるまちづくり

- ▶ 若者世代に向けた移住・定住促進に関する支援やきめ細かな相談体制により、30代の若者世代を中心に移住者は増加傾向で、令和3（2021）年度の移住者数は過去最高の174人となりました。

若者の起業支援に関する取組では、「起業支援補助事業」により、平成26（2014）年度から令和3（2021）年度まで41件の起業を支援しました。

- ▶ 子どもを安心して育てられる環境づくりのため、福祉医療費の給付対象を18歳まで拡充しました。また、第3子以降の保育料無償化〔令和元（2019）年10月からは国の制度により「3歳以上保育料無償」〕に加えて、満1歳からの保育、保育時間の延長、土曜日保育・休日保育、副食費の無償化を実施したほか、保育料の階層区分を細分化し、保護者の負担軽減を図りました。さらに、子育て支援の拠点施設として飯山市子ども館「きらら」を整備し、子育てに関する総合的な支援を進めました。



自然環境と高速交通網を活用した産業を育成するまちづくり

- ▶ 平成27（2015）年春の北陸新幹線飯山駅開業後、駅周辺には複数の新たな商業施設が進出するなど新たな賑わいが生まれました。また、賑わい創出拠点として、令和3（2021）年度に民間事業者との基本協定により市も支援するなかで、飯山駅前市有地にホテルの建設が決定しました。

- ▶ 飯山の「農産物」と地元の食材を活かした「食」の充実を図るため、道の駅「花の駅千曲川」に、農産物直売所とレストラン等の機能を兼ね備えた農業観光振興拠点施設を整備しました。また、アクティビティ拠点施設の建設にも着手し、総合的な道の駅とすることで、飯山市の魅力の発信と併せ、交流人口の増加に向けた取組を進めました。



防災体制と医療介護体制の充実で親も子どもも安心できるまちづくり

- ▶ 自然災害等に対する防災体制の強化、誰もが安心して暮らせる環境整備に向け、新たにデジタル防災行政無線の整備を行うとともに、屋外スピーカーの設置やメール配信サービスなど情報伝達の多重化を図りました。
- ▶ 地域中核医療機関の機能充実に向けた支援を行うほか、医学生奨学金や医師研究資金の貸付を拡充することにより、飯山赤十字病院の勤務医不足に対して、医師招聘を推進しました。また、高齢者等世帯の屋根の雪下ろし等の費用に対する支援や緊急時避難路確保を目的とした除雪作業員による除雪支援、地域の皆さんが取り組む除雪支援の活動への支援など雪国ならではの除雪に対する取組を行いました。



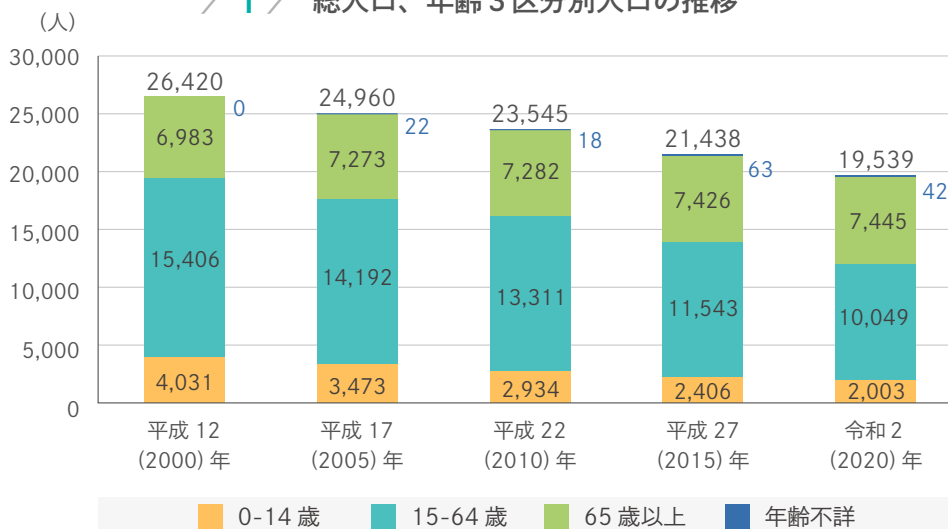
ICT教育と国際交流を通じて生きていく力と郷土愛を育成するまちづくり

- ▶ 児童生徒の国際感覚および英語コミュニケーション能力の向上を目指し、小・中学校への外国語指導助手の増員を行うほか、これからの時代に対応するため、STEM教育を導入し、プログラミング教育を進め、グローバルに活躍できる児童・生徒の育成を推進しました。
- ▶ 飯山の新たな学校の目指すべき姿と保育園のあり方や児童クラブ・児童センター等の考え方を示した「飯山の新たな学校づくり計画」を策定し、令和7（2025）年度の開校に向けた城北中学校区の統合小学校整備に着手しました。



(2) 飯山市の人口動態

1 総人口、年齢3区分別人口の推移

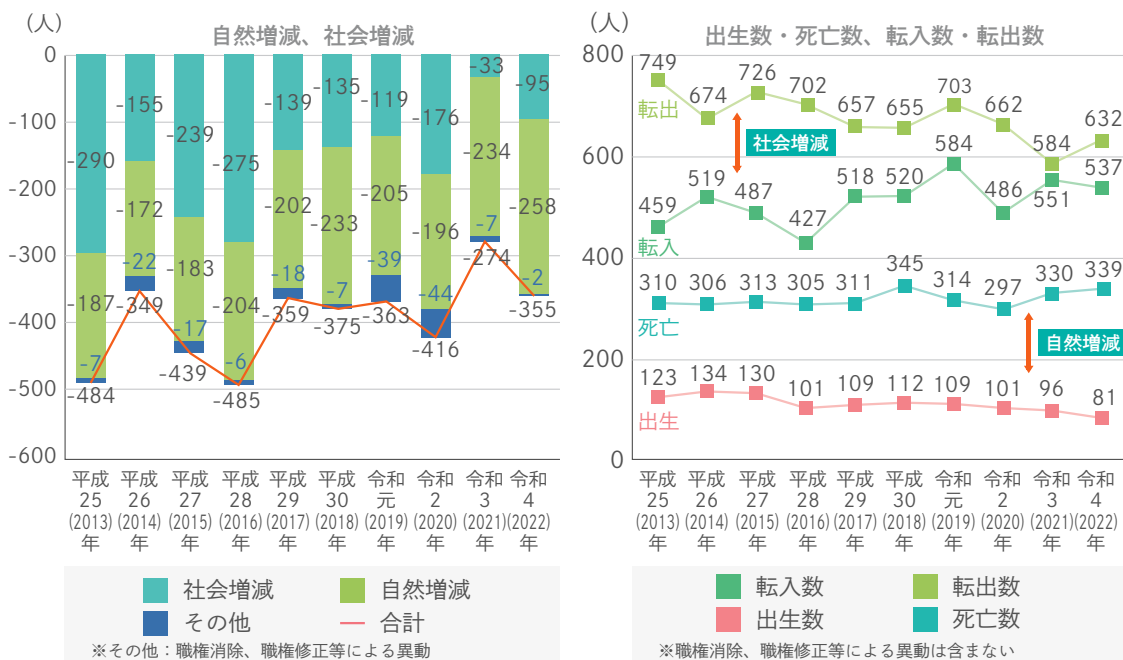


資料：国勢調査

Point

- 総人口は減少傾向、65歳以上人口は増加傾向です。

2 自然増減・社会増減



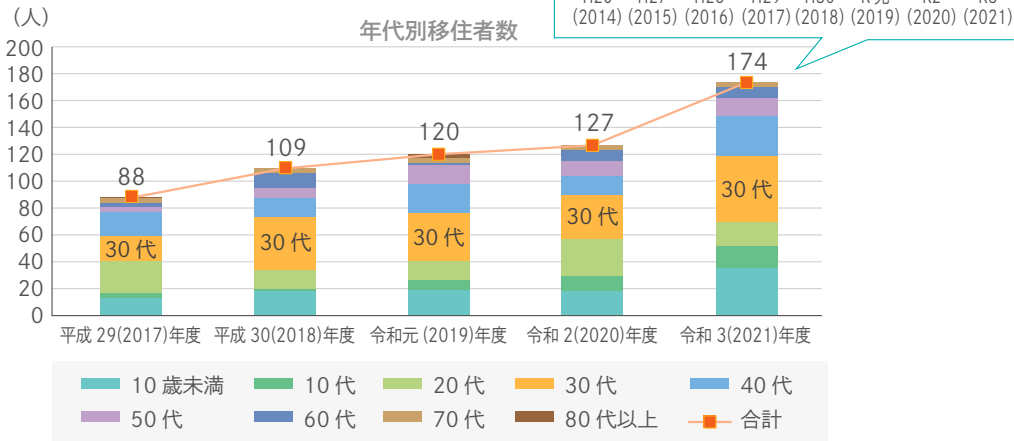
資料：市ホームページ「人口、世帯数（毎月人口異動調査結果に基づく推計人口）」再編加工

【注記】年次データ

Point

- 社会減は近年改善傾向です。
- 出生数は近年減少傾向です。

／ 3 ／ 近年の移住者数



Point

- 住宅建設や通勤等の各種支援、きめ細かな相談体制により、30代の若世代を中心に移住者は増加傾向で、令和3（2021）年度の移住者数は過去最高の174人となり、社会減の改善につながりました。

移住者アンケート調査

令和元(2019)年度から令和3(2021)年度までに移住し、移住等の補助金対象者、空き家バンクや移住定住促進住宅への居住者など市を介した移住者を対象に、移住時および移住後の状況をアンケートにより調査しました。

【飯山を選んだきっかけ・理由】

「地元だから」「実家が近いから」という理由が一番多く、次いで飯山の「自然・環境・景色」を理由にした方が多い状況です。

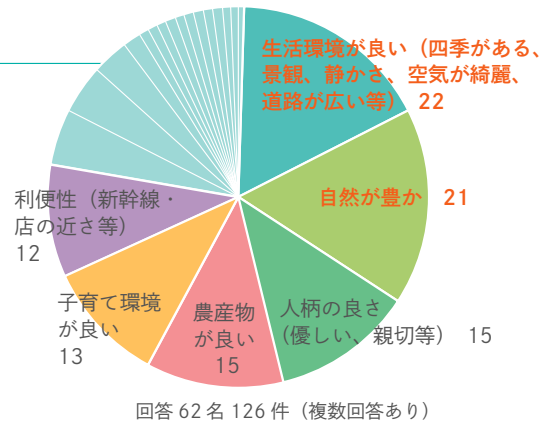
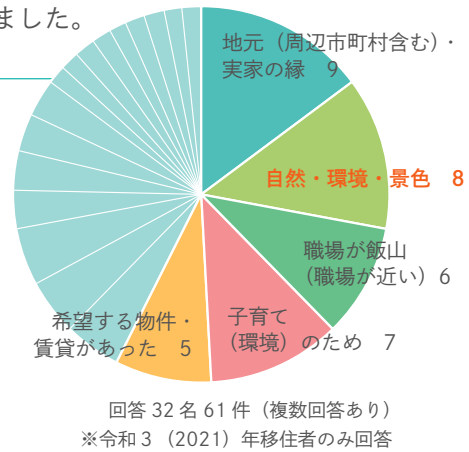
【移住してよかったこと】

「生活環境が良い」「自然が豊か」の回答が多く、関係性の高い「子育て環境の良さ」の回答と合わせると全体の約半数になります。

また、飯山の「人柄の良さ」や「農産物」、「新幹線やスーパー等の距離などの利便性」を挙げている方も多く、これらも飯山の魅力であると言えます。

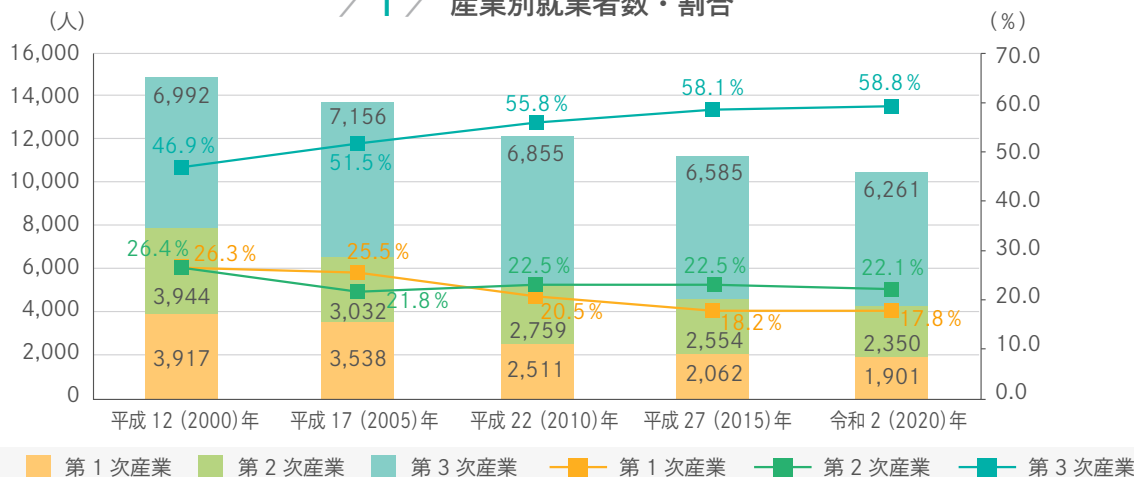
Point

- 豊かな美しい自然環境と、この地に住む人々のひたむきな努力によって形づくられてきた里山が、選ばれる理由となっています。



(3) 産業

／ 1 ／ 産業別就業者数・割合



※分類不能の産業は含まない。

資料：国勢調査

Point

- どの産業分類の就業者数も減少しています。
- 第3次産業の就業者割合が増加しています。

(人)

	平成 12 (2000)年	平成 17 (2005)年	平成 22 (2010)年	平成 27 (2015)年	令和 2 (2020)年
第1次産業	3,917	3,538	2,511	2,062	1,901
農業	3,891	3,531	2,472	2,023	1,862
林業	23	7	39	39	38
漁業	3	-	-	-	1
第2次産業	3,944	3,032	2,759	2,554	2,350
鉱業・採石業・砂利採取業	3	4	6	10	3
建設業	1,923	1,529	1,210	1,118	1,033
製造業	2,018	1,499	1,543	1,426	1,314
第3次産業	6,992	7,156	6,855	6,585	6,261
電気・ガス・熱供給・水道事業	47	45	45	38	42
運輸・通信業	619	531	-	-	-
情報通信業	-	-	89	91	94
運輸業・郵便業	-	-	535	458	397
卸売・小売・飲食店	2,242	1,969	-	-	-
卸売業、小売業	-	-	1,714	1,554	1,481
金融業、保険業	138	136	111	95	88
不動産業	25	29	-	-	-
不動産業、物品賃貸業	-	-	61	61	57
サービス業	3,423	3,982	-	-	-
学術研究・専門・技術サービス	-	-	187	175	177
宿泊業、飲食サービス業	-	-	733	710	645
生活関連サービス業、娯楽業	-	-	372	342	343
教育、学習支援業	-	-	431	385	393
医療、福祉	-	-	1,348	1,413	1,435
複合サービス業	-	-	307	330	249
サービス業 (他に分類されないもの)	-	-	515	473	465
公務 (他に分類されないもの)	498	464	-	-	-
公務 (他に分類されないものを除く)	-	-	407	460	395
分類不能の産業	68	158	150	137	142
計	14,921	13,884	12,275	11,338	10,654

※総数には、分類不能の産業を含む。

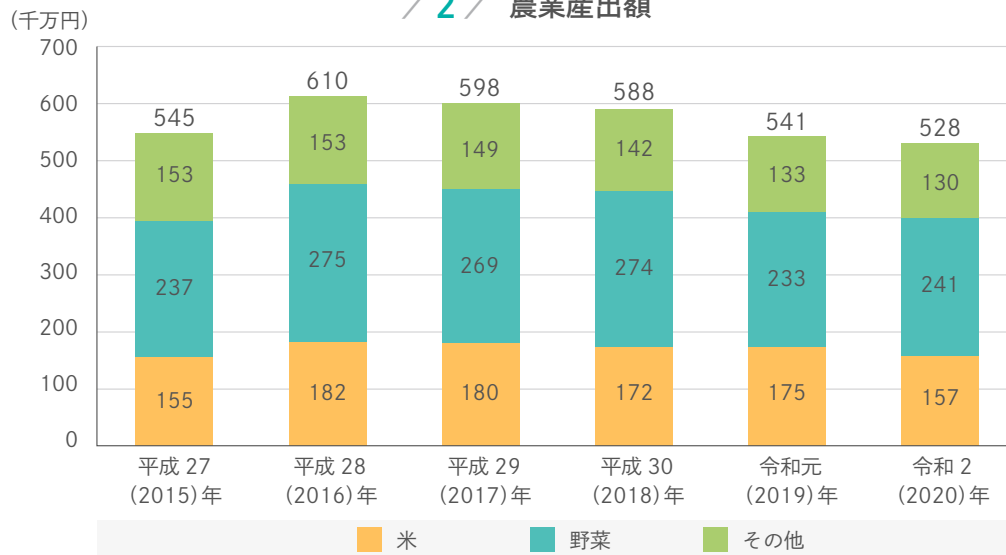
※平成 19 (2007) 年から日本標準産業分類が変更されている。

資料：国勢調査

Point

- 令和 2 (2020) 年の第1次産業の就業者数は平成 12 (2000) 年の約半数となっています。
- 第3次産業の就業者数では、情報通信業、医療・福祉が増加傾向です。

／ 2 ／ 農業産出額



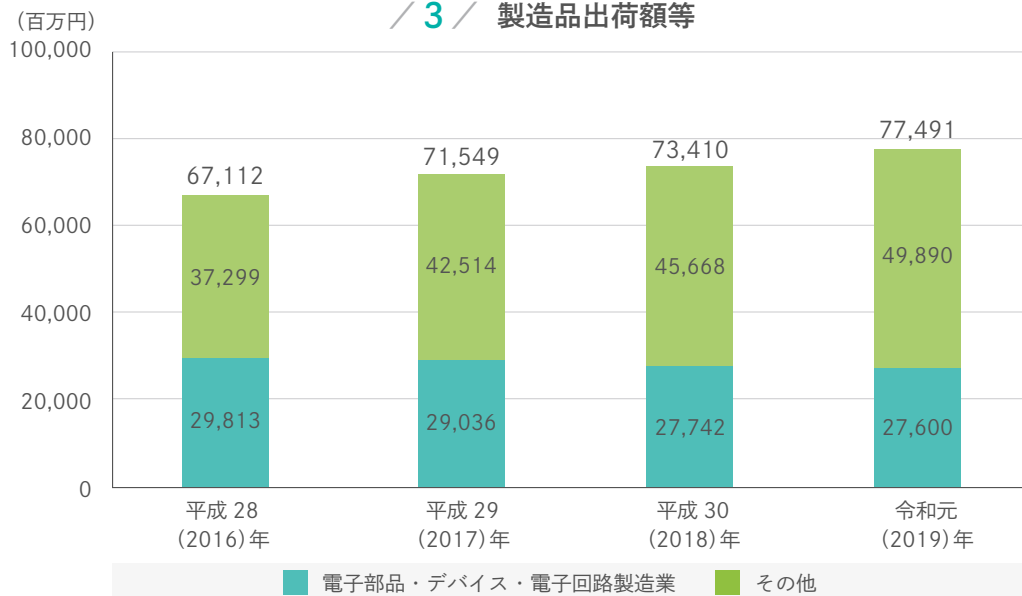
※菌茸は含まない

資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

Point

- 野菜と米で産出額の7割以上を占めています。

／ 3 ／ 製造品出荷額等

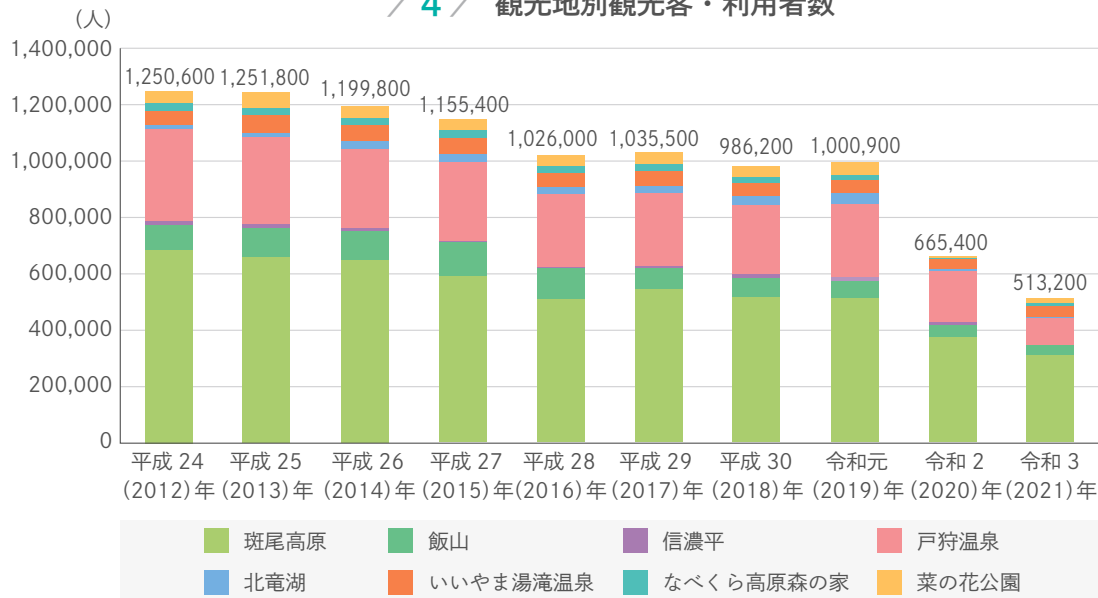


資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

Point

- 製造品出荷額等は増加傾向です。
- 令和元（2019）年では、電子部品・デバイス・電子回路製造業が全体の約36%を占めます。

／ 4 ／ 観光地別観光客・利用者数



資料：商工観光課資料

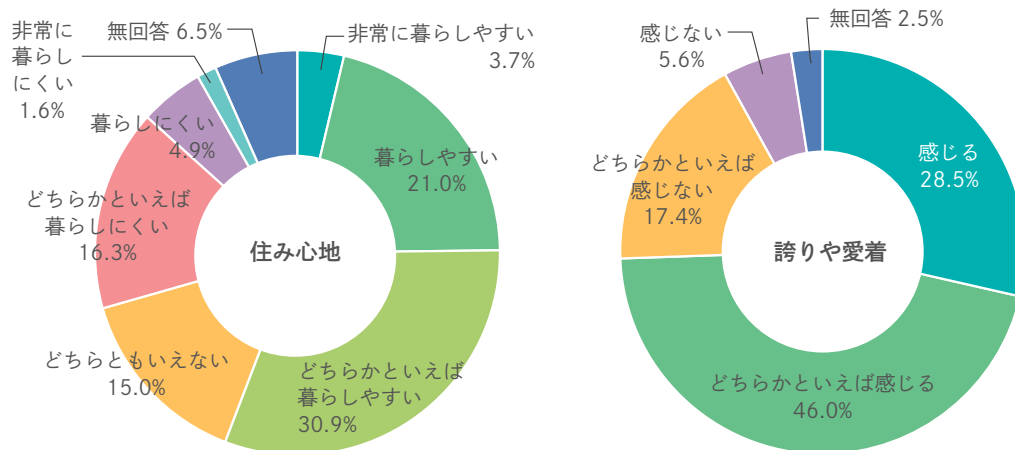
Point

- 斑尾高原が全体の約半数を占め、経年変化では概ね減少傾向にあります。
- 令和 2 (2020) 年と令和 3 (2021) 年は、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少しました。

(4) 市民のニーズ

／ 1 ／ まちづくり市民アンケート調査 (1,338 人の回答)

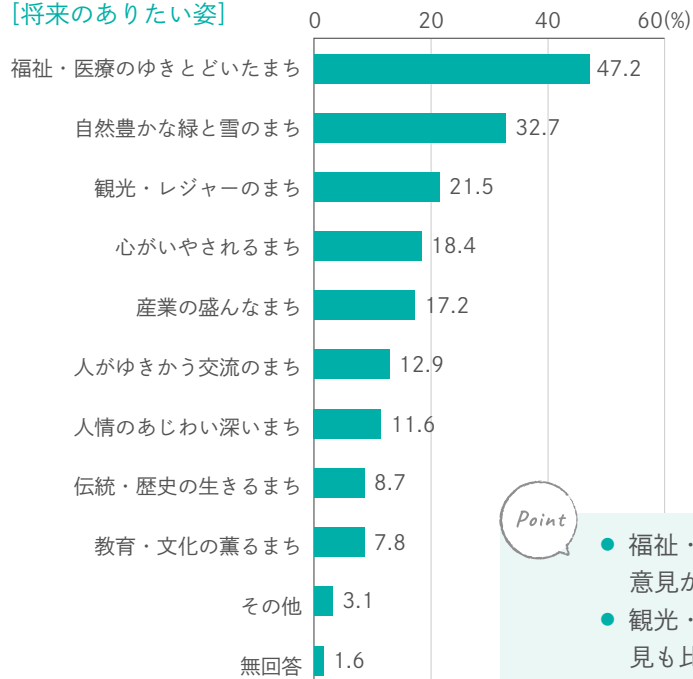
[住み心地・誇りや愛着]



Point

- 暮らしやすいと感じる人は合わせて約 56%です。なお、暮らしにくいと感じる人は合わせて約 23%です。
- 誇りや愛着を感じる人は約 75%です。なお、誇りや愛着を感じない人は 23%です。

[将来のありたい姿]



Point

- 福祉・医療や自然を重視する意見が多い状況です。
- 観光・レジャーを重視する意見も比較的多く見られます。

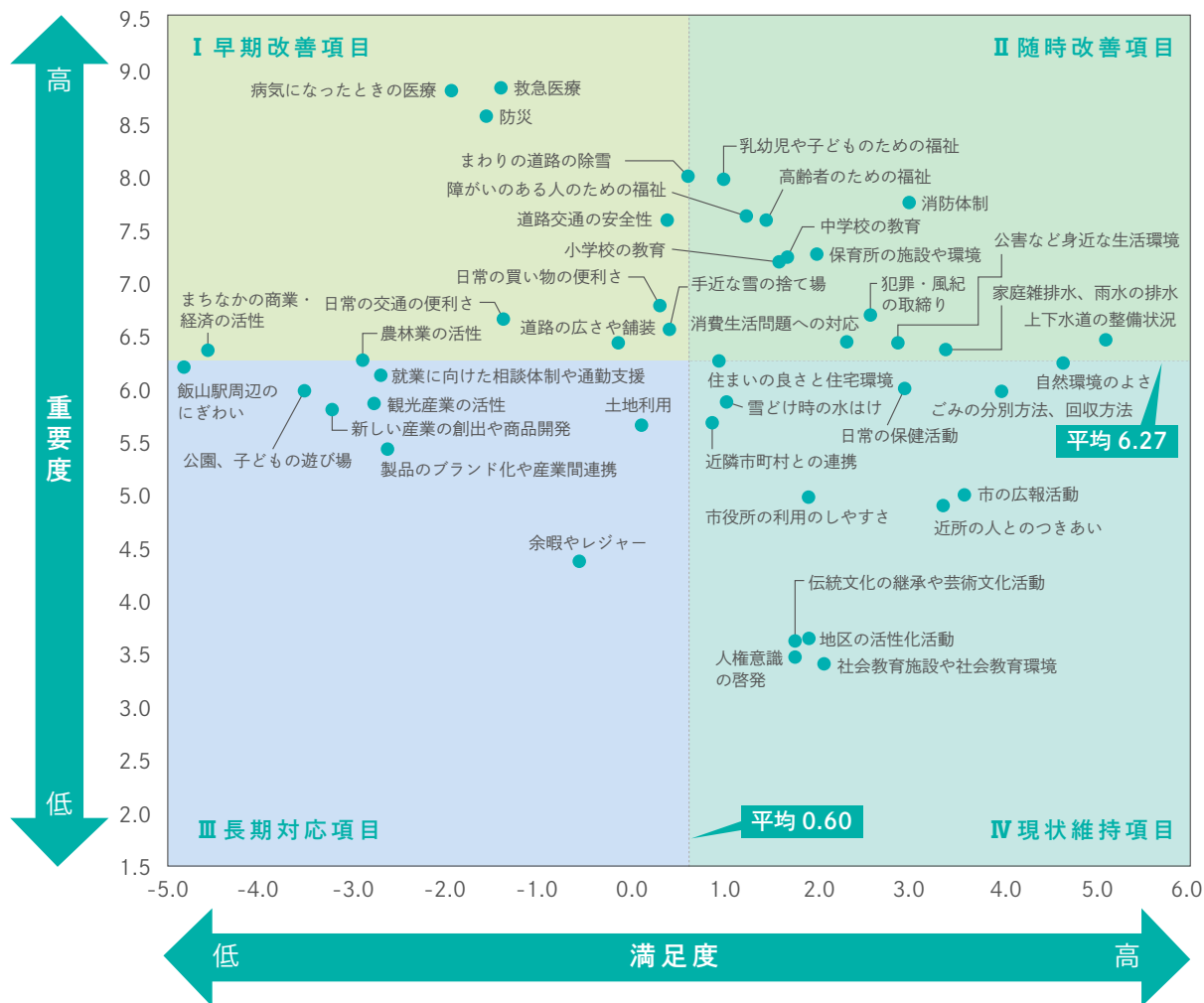
[生活環境の満足度と重要度]

生活環境に対する市民の満足度・重要度について、満足度・重要度の以下の各段階に得点を付与し、それぞれの得点に回答者の割合（選択肢「わからない」と無回答を除いた数を基に計算）を乗じ、その和をそれぞれの項目の点数とします。

- ・満足度→ 満足：10点 やや満足：5点
やや不満：-5点 不満：-10点
- ・重要度→ 重要：10点 やや重要：5点
あまり重要ではない：-5点 重要ではない：-10点

点数化した各項目を散布図に示し、満足度・重要度の平均と比べて高いか低いかによって、取り組む優先度の高い順にⅠ～Ⅳの4つの象限を設定しました。

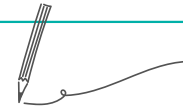
- Ⅰ 早期改善項目：優先的に改善を望んでいる分野
- Ⅱ 随時改善項目：現在の水準を維持および向上を望んでいる分野
- Ⅲ 長期対応項目：優先度は低いが改善を望んでいる分野
- Ⅳ 現状維持項目：現在の水準の維持を望んでいる分野



Point

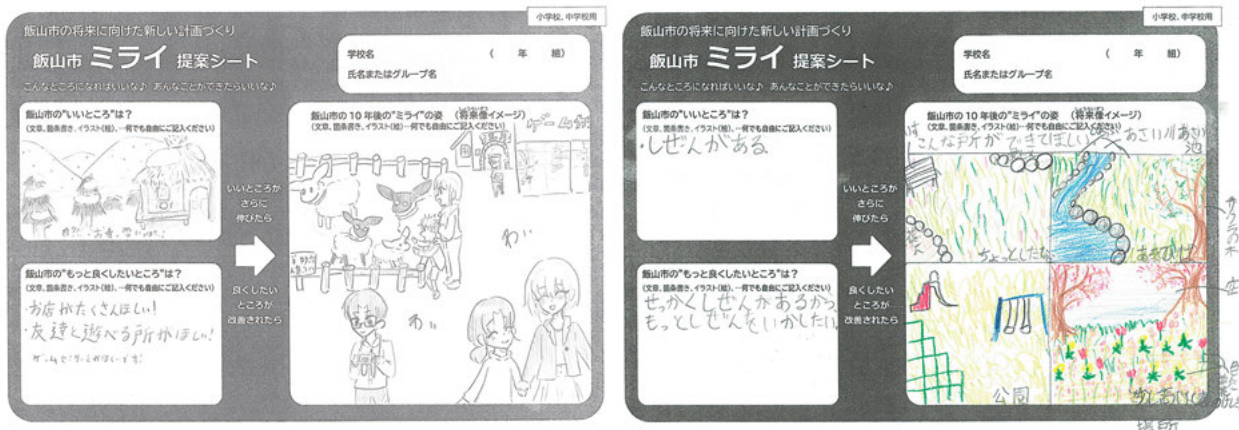
- 重要度も満足度も高い政策分野は、主に環境保全や福祉・教育・消防です。
- 重要度が高いものの満足度が低い政策分野は、主に医療・防災・道路・雪対策です。

／ 2 ／ 小中学生アンケート

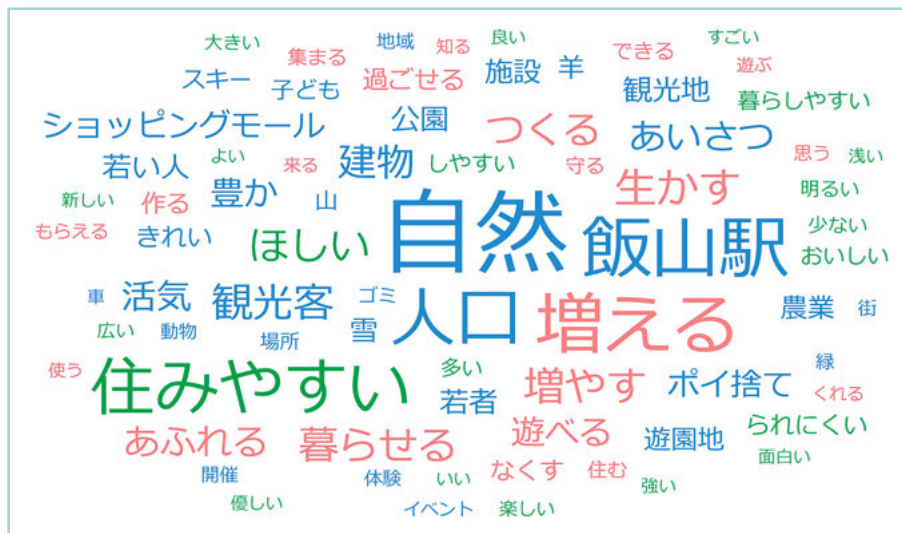


[ミライ提案シート]

市内の小中学生に、飯山市の10年後の“ミライ”の姿（将来像のイメージ）を描いていただきました。



飯山市の「いいところ」や「将来像のイメージ」をイラスト等で表現



AI分析…将来像の提案に関する単語分析

提案の一つひとつをテキスト化し、スコア [その単語の「重要度」を表す値（特徴的な単語)] が高い単語を複数選出、その値に応じた大きさと色で図示しています。

Point

- 「自然」や「飯山駅」を活かして「観光客」や「人口」を「増やす」など多くの提案がありました。

5 飯山市の課題

社会の潮流、飯山市の現状および第5次総合計画の施策の評価等から、5つの分野に分け、主な課題を整理します。

1 自然環境・移住定住・観光交流・ 新たな価値の創出

- 飯山市の美しい四季のある自然環境を守るとともに、その魅力を最大限活用し、飯山ならではの新たな価値を生み出すことが必要です。
- デジタル技術の進化やライフスタイルの多様化により、都市部の企業においてはテレワークやワーケーション、プレジャーなど新しい働き方も注目されていることから、豊かな自然環境を活かし積極的な誘致や支援とともに、ニーズに対応した環境整備が必要です。
- 市への関心や愛着の向上を図るとともに、定住人口、交流人口、関係人口の創出・拡大に向けた効果的な情報発信と戦略的なプロモーションが必要です。
- 北陸新幹線飯山駅開業によるインバウンドへの波及効果は大きいと見られ、更なる冬期誘客に努めるとともに、グリーン期においても外国人の関心度の高いコンテンツの充実を図ることが必要です。
- 地方への移住希望の機運が高まっています。本市が選ばれる地域となるよう、多様化するニーズに対応した支援や制度の整備が必要です。
- 地球温暖化による気候変動の影響は、本市にも猛暑・大雨・豪雪・寡雪など顕著に表れています。気候変動を緩和するため、再生可能エネルギーの活用や脱炭素社会への転換が強く求められているとともに、適応策を検討する必要があります。
- 市民の環境に対する興味や関心を高め、環境を学ぶ姿勢や豊かな自然環境を保全する住民主体の取組を後押しする必要があります。
- 公共施設等の未利用施設の活用のほか、空き家や耕作放棄地等が周辺環境へ深刻な影響を及ぼしていることから、早期の対策が必要です。

2 子育て・教育

- 子育てを取り巻く社会環境や家庭環境など様々な環境の変化に対する各家庭の状況把握と改善に向けた支援が必要です。
- 妊娠・出産・子育てまで、一人ひとりの希望が叶うよう、切れ目のない支援が必要です。
- 基礎学力の確保に加え、問題の論点を整理し課題解決できる力を身に付ける取組が必要です。
- ふるさとに誇りを持つとともに、地域の課題に向き合うことで地域の一員として地域づくりを行ったり地域を大切にしたりする心を培うため、ふるさとを学ぶ機会を提供することが必要です。
- ICT教育・プログラミング教育の推進や、国際化社会に対応するための外国語教育を含めた国際化教育の強化が必要です。

3 地域産業・雇用

- 市民アンケート調査では、飯山駅周辺の賑わいに関する満足度が低く、事業者や商業施設等の誘致が求められています。
- 農業就業人口の減少や高齢化に伴い、農地が適切に利用されなくなることが想定されるため、新規就農者の確保・育成を図るほか、地域の協議により将来の農地利用の姿を明確化する必要があります。
- 地域経済を支える市内企業の育成や雇用の確保等の支援、デジタル技術の活用および産業連携等によるイノベーションに向けた取組が必要です。
- 伝統文化の継承や産業の振興を図るため、後継者の確保や人材育成への支援が必要です。
- ライフスタイルや価値観の多様化に応じた柔軟な働き方へ改革が求められています。

4 市民協働・生きがい・文化

- 若者の力をこれからの飯山の活力につなげられるよう、コミュニティの場づくりや新たな取組にチャレンジできる仕組みづくりが必要です。
- 市民一人ひとりが地域課題を自分事として捉え、課題解決に向けて市民協働で取り組むことが必要です。
- 結婚希望者の成婚へつながる支援として、婚活イベント等の出会いの場の提供だけでなく、結婚希望者の個別サポートが必要です。

- 飯山で生きがいをもって住み続けることができるよう、時代の変化に合わせた知識やスキルの習得などリカレント教育（大人の学び）の場が必要です。
- 互いを尊重し、支え合いながら暮らせる地域づくりが必要です。
- 芸術文化の振興を図るため、市民が芸術文化に触れる機会をより多く創出することが必要です。
- 市内にある文化財や歴史的景観を適正に保存し、後世に伝えていくことが必要です。
- 健康増進や体力向上を図るため、それぞれの年代で気軽に多種多様なスポーツを楽しむ環境づくりが必要です。

5

公共交通・医療・福祉・インフラ・ 防災・行財政

- 市民アンケート調査では、市民が願う市の将来像として「福祉・医療のゆきとどいたまち」が最も高いことから、地域中核医療機関への支援や救急体制の確保、介護サービスの充実などいつまでも安心して暮らせるよう一層の取組が求められています。
- 飯山赤十字病院における医師不足を解消するため、医師の招聘と将来の医師の確保を図る必要があります。
- 人口減少や少子高齢化により、地域のつながりが希薄になったり、コミュニティ活動が低下するなどの傾向があるため、地域福祉の担い手の確保をはじめ、地域で支え合う仕組みや行政のサポートが必要です。
- 集落と市街地や他の地域を結ぶ移動手段、飯山駅を起点とした二次交通など市民や来訪者の様々なニーズを踏まえ、効率的で利便性の高い公共交通網の形成が必要です。
- 道路、橋りょう、上下水道等の老朽化への対応や強靱化を推進するため、限られた財源のなかで、計画的な施設整備が必要です。
- 流域治水や土砂災害対策を進めるとともに、ハザードマップの作成・周知等で災害時に避難場所への早期避難を促し、リスクを低減させる必要があります。
- 災害が激甚化・頻発化しているため、国や県をはじめ関係機関と連携を密にした防災体制の構築や、日々進化するテクノロジーの活用による災害予測・対応を図るとともに、自主防災組織を中心とした地域の助け合い等の仕組みづくりが必要です。
- 市民サービスの向上を図るため、一層の財源確保に努めるとともに、事務事業の見直しや民間・都市間連携を進めるなど持続可能な行財政運営への取組が必要です。

6 第6次総合計画の方向性

全国的な人口減少・少子高齢化が急激に進行します。今後、生産年齢人口が減少するため地域経済の縮小による税収減や社会保障費の増加により行政サービス水準の維持が困難になるなどの影響が危惧されます。

また、地域の担い手が不足し、これまでの集落活動が維持できなくなるなど地域コミュニティ機能の低下にも大きく影響します。

一方で、デジタル技術の急速な進化や働き方改革の推進など社会情勢に大きな変化がみられるなか、新型コロナウイルス感染症のまん延を契機に、人々の暮らし方や働き方に関する価値観の大きな変化により、ライフスタイルの多様化や大都会の便利な暮らしから地方での豊かな暮らしを選ぶ時代となりました。

これまでの10年間、豊かで恵まれた自然環境の中で、その魅力を高めながら、北陸新幹線飯山駅開業を契機に、子どもから高齢者まで住みやすく、安心やゆとりが実感できる「自然と共生した新たな価値創造の都市」を目指し、令和元年東日本台風による被災や新型コロナウイルス感染症のまん延による影響を受けながらも市民・団体・事業者・行政が一丸となり、まちづくりに取り組んできました。

飯山市の最大の魅力は、季節の移ろいが豊かな美しい自然環境と、この地の人の営みによって育まれてきた「里山」が、世界を誘う玄関口「北陸新幹線飯山駅」を包み込むように広がっていることです。この飯山ならではの「里山」が、30代の若者世代を中心とした日本人だけでなく外国人をも移住先として惹きつける魅力となっています。

これからの10年間、飯山市のあらゆる地域資源の可能性を最大限に引き出し活用するとともに、デジタル技術の急速な進化や新型コロナウイルス感染症の影響による人々のライフスタイルの変化など時代の変化を的確に捉え、訪れたい・住みたい・暮らし続けたいと思われる「世界に誇れる里山」を目指し、一人ひとりが未来を考え知恵を出し合いながらまちづくりを進めます。

これまで高め続けた魅力

豊かな自然と里山が織りなす景観、産業、文化、歴史、地域のつながり等

「訪れたい・住みたい・暮らし続けたい」と思う人を増やす

地域資源

恵まれた自然環境・景観
北陸新幹線飯山駅 等



最大限 活用する



チャンス に変える
課題解決に 挑戦する

時代の変化

デジタル技術の進化、
ライフスタイルの変化、
ダイバーシティ、気候変動、
SDGs 等

一人ひとりが飯山の未来を考え、知恵を出し合い、「世界に誇れる里山」を目指します

飯山市第6次総合計画の実行